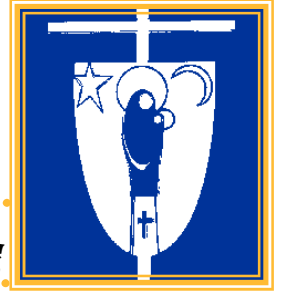


Via Latina 22



総本部よりのお知らせ - マリア会

2015年12月
246号



総本部と神学校から

皆様にX'MASの喜びと
幸せな新年をお祈り
いたします。

ハワイでの終生誓願

9月19日、カラフルで喜び溢れる式典の中で、Brandon Alana-Maugaotega士はマリアニスト修道者としての終生誓願を立てました。家族の皆さん、友人たち、マリア会員等に見守られながら、Brandon士は清貧、貞潔、従順、および堅忍の生活を生きるという誓約を行いました。マリア会管区長、Martin Solma師がホノルルのシャミナード大学“奇くすしきバラの花”小聖堂にて誓願式を司式しました。ミサ聖祭と誓願式には、Brandon士が受け継いでいるサモア文化の伝統が取り入れられました。Brandon士はシミナード大学で宗教学の学士号取得を準備している時に初めてマリア会員と出会いました。彼は2009年に初誓願を立て、現在はシャミナード大学のキャンパス・ミニストリーの仕事をしています。

おめでとう、ブラザーBrandon！

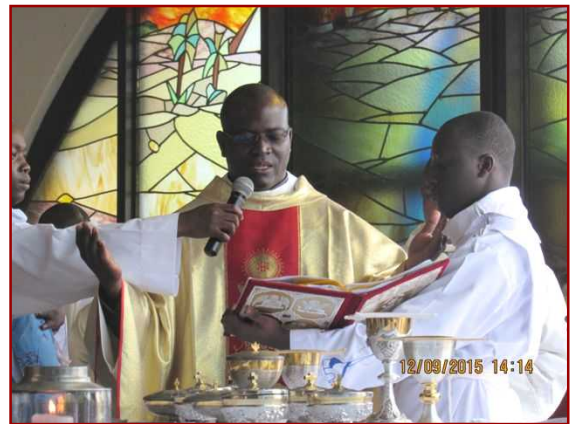
誓願式後、Brandon士を囲む司祭たち：
(左より) Jack McGrath, Paul Fitzpatrick, George Cerniglia, Patrick McDaid, Martin Solma



入堂のとき、福音書を運ぶ
サモアの伝統的な服装をしている男たち

マリア会の3名の司祭叙階

コートジボワール地区：2015年9月12日（土）、Gautier Somé士はコートジボワールのアビジャンにある国民的マリア巡礼地聖堂にてアベンゲルのBruno Kouamé名誉司教によって司祭に叙階されました。ミサ聖祭式典は10時に始まり、フランス管区長Eddie Alexandre師、マリアニスト家族メンバー、マリア聖堂に集う信者たち、イスラム教徒と様々な宗教の友人たちが出席していました。またこの式には、ブルキナファソからの多数の代表者を含むSomé士の出身小教区の信者たちも出席していました。この式の特別なテーマは“誕生、または豊作”というものでしたが、これはマリアニスト司祭 Noël Dominique Kouao Akobé 師が喜びのうちに表現したものでした。Gautier師はNoël師の後に叙階された最初の司祭でした。それで、Noël師がこの言葉を言ったように、7年もの長い間待った後（不毛の後）、Gautier司祭が誕生したのです。ですからNoël師は“豊作”を喜んでいるのです。豊穰は、人々の心の中にイエス・キリストを誕生させるという意味で、私たちの信仰が有する一つの側面です。ミサの後、マリア巡礼地のスタッフとして勤めているマリアニストたちの共同体で昼食が提供されました。



Daniel師（中央）とローマの国際神学校校長のCanseco師（右）

東アフリカ地区の叙階式はDaniel Odero Osino士の司祭職への叙階を祝いました。叙階式はケニア、モンバサのMartin Kivuva Musonde 大司教の按手にて執り行われました。式典は2015年10月10日、モンバサのマリア会が管轄する聖マルチノ・デ・ポレス小教区にて行われました。Daniel師のご両親、ケニアとザンビアからのマリア会員と信徒マリアニストが列席しました。彼の出身地、西ケニアのムバガ小教区からの代表者や多くの友人たち、小教区信者たちが祝いの行事に参加しました。式典は昼食会へと続いていきました。食事は小教区に隣接しているマリアニスト開発プロジェクトのケータリング部によって準備されました。又、式典では様々異なるグループからの挨拶スピーチと余興が披露されました。

アメリカ管区：2015年10月3日、USAオハイオ州デイトンのMount St Johnキャンパスの“使徒の女王”聖堂にてBob Jones士の叙階式がマリアニスト家族の見守る中で行われました。インディアナポリスの大司教区のJoseph Tobin大司教が叙階式を司式しました。インディアナのフォートウェイン市生まれのBob師はデイトン大学から数学修士号を得ています。彼はDayton大学でマリアニストに出合っていました。卒業して高校で教えていたころまでは、修道召命について考え始めることはありませんでした。彼は2007年に初誓願を立て、ボストンカレッジで司牧についての修士号を授かりました。彼はローマの教皇庁立聖トマス・アキナス大学にて神学の勉学を修めました。彼はセントルイスの柱の聖母小教区にて一年間の司牧職を経験しています。Bob神父、おめでとう！



奉献生活之年

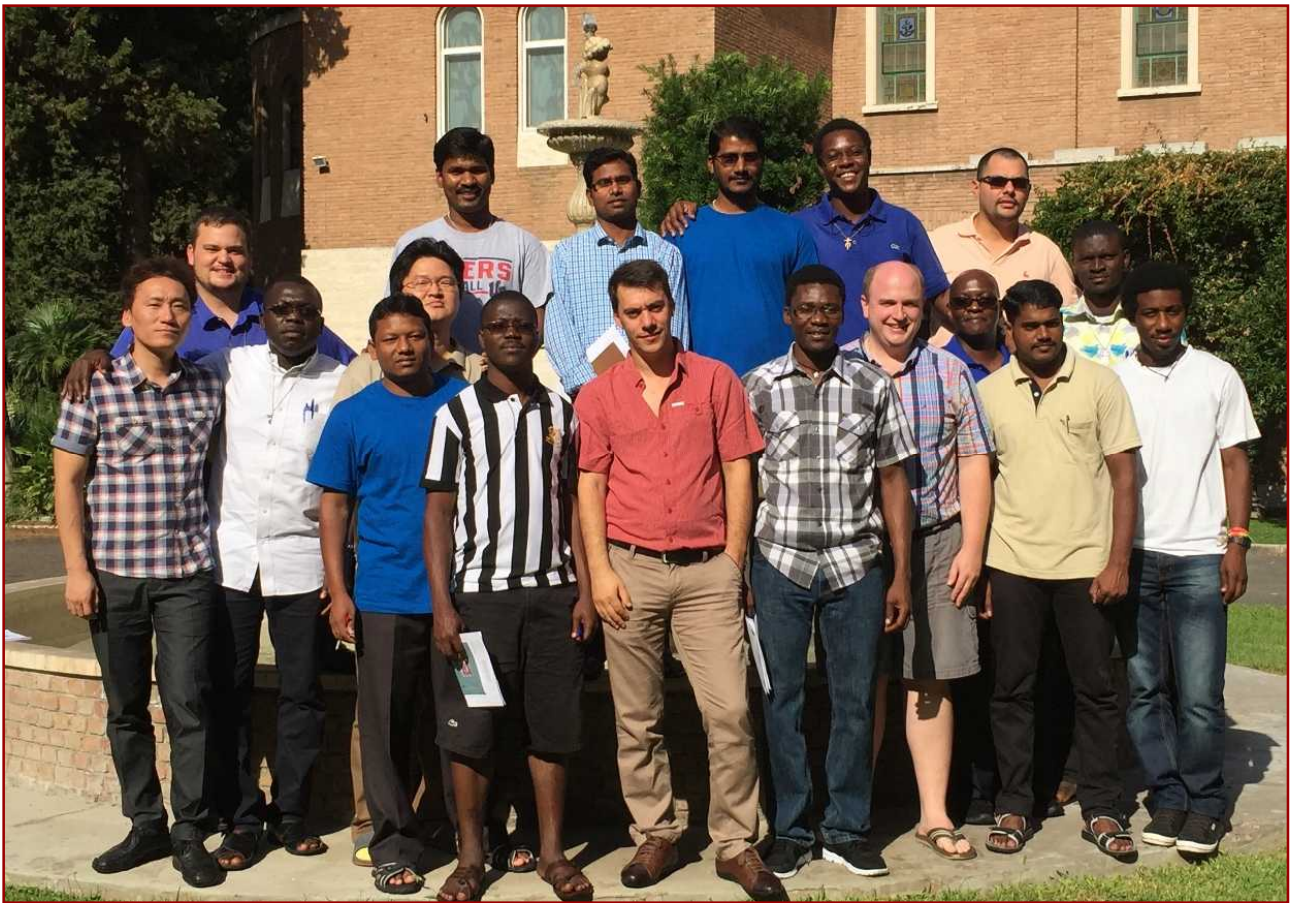
“世界を目ざめさせよ”

若者奉献者の世界大会

ローマ、2015年9月15日～19日

19名の若いマリアニスト（そのうち6名が神学生）が、ローマで開催された全世界から集まった約4000名の若い奉献者の会議に出席しました。9月15日～19日の5日間、奉献生活の年を記念するためローマで若い奉献者国際会議が行われました。会議のテーマは“世界を目ざめさせよ！”と言うものです。会議内容は以下の種々の項目を含んでいました。

（以下は1人の参加者の報告です。）



（左→右）最後列： Raj Mohan Chinnappan (IN); Sudhir Soreng (IN); Mariandu Anthonymsamy (IN), Jean Moïse Néré (ES); Óscar Salazar Estupiñán (CE); 二列目： Mark Motz (US), Savio Bong Gyu Choi (KO); Michael Chiuri (US); Anselme Agbessi (TO); 一列目： Minyoung Ki (KO); Frantzy Perrier (FR); Suman Dumdung (IN); Matthieu Hilim (TO); Edmond Prenga (IT); Enock Pierre (ES); Daniel Griffin (ME); Peter Paul K. (IN); Wolph Paul (ES); 欠席： Romuald Nlumbu Mfumu (FR)

- * 修道生活の様々な側面についての講話
- * 若者たちの分ち合いと考察のためのワークショップ
- * 聖体祭儀
- * 教会の社会福祉関係者とのローマ街路の夜歩き
- * 美術品を味わう旅行計画
- * 福音宣教、証し、和解のための課程計画
- * 礼拝、賛美、神へのとりなしの機会
- * 修道者である殉教者の祝い

確かに、私たちが目覚めていなければ世界を目覚めさせることは出来ないのです。それで、今回の会議の開会式で、CICLSAL（奉献・使徒的生活会省）の秘書であるJosé Rodriguez Carballo OFM大司教は、聖ペトロ広場での前夜祭の間に私たちに次のように語りかけました。

「勇気を持って、強くあれ！ 堅忍しなさい！

忠実でありなさい、そして実を結びなさい、世界を目覚めさせなさい！」

講話および分かち合いのセッションは、召命、共同体生活、宣教活動についてでした。

CICLSALの長官であるJoão Braz de Aviz 枢機卿は、“呼びかけに耳を傾けなさい”という勧めの中で、今日の若者である私たちが奉献生活の新しい葡萄酒として描写しました。新しい葡萄酒は新しい革袋を必要とするので、枢機卿は私たちが共同体、養成、そして権威への奉仕という革袋を作りなおすよう促しました。別の言葉で言うと、私たちは聖霊に導かれ、“神の手に在るペンのように”ならなければなりません。それはまた、“傾聴と出合いの場所”である教会における奉仕とリンクしたものとして、私たちの召命を自覚することも含んでいます。

兄弟愛に関しては、創世記においてカインとアベル、ヨゼフと彼の兄弟の間の緊張に示されるように、聖書は最初から惨劇のまっただ中にそのページを開きます。これは兄弟愛がいかに壊れやすいかを表しています。兄弟愛は賜物であり、絶えず頂かなければなりません。兄弟愛は愛と許しを通してしか完成され得ないのです。

宣教活動に関しては、私たちは宣教活動を、一致しようとする態度で人と接する“近くあることの神秘性”として、すなわち、人間社会とその希望や苦悩を分かち合うために疎外された人々のところへ出かけていくこととして、聖書の光を通して見なければなりません。

教皇様は私たちが謁見され、私たちの質問にいくつかお答えになりました。教皇様は、他者についてのゴシップ(それをテロに例えられた)、使い捨ての文化、自己愛、硬直した慣習に対して私たちが警戒するよう呼びかけ、むしろ、聖霊から発し、人に夢を見させる神の崇敬や自由へと私たちに招いてくださいました。

すべては、“エコロジカルな”生き方をしようとする呼びかけに集約されると思います。そういう生き方の中に、私たちは自分の時間、(共同体の兄弟たちから始まる)他者のための時間、そして神のための時間を有するのです。

Bro. Anselme Agbessi, sm (トーゴ)



サンピエトロの前に立つマリアニスト若者たち！

カトリック教育世界大会（ローマ）

教育への教会の献身を再スタートさせるということを目的とした教皇庁教育省の計画によって、2015年11月18日から21日まで、この世界大会がローマで開催されました。世界各地から2000名以上の参加者が集まりました。「教育の現状と将来：情熱を新たに」と題されたこの会議は、第二バチカン公会議の「キリスト教的



教育に関する宣言」50周年、および、「カトリック大学に関する使徒憲章」25周年を記念するものでした。4日間にわたり、様々なカトリック教育機関や大学で働く参加者たちは、次のような様々なテーマに取り組みました。

- * カトリック教育機関のアイデンティティと使命
- * 学生中心の教育と多様な文化を背景とする学生たち
- * 教師の育成、および増々宗教的に多様化する社会におけるカトリック教育への挑戦

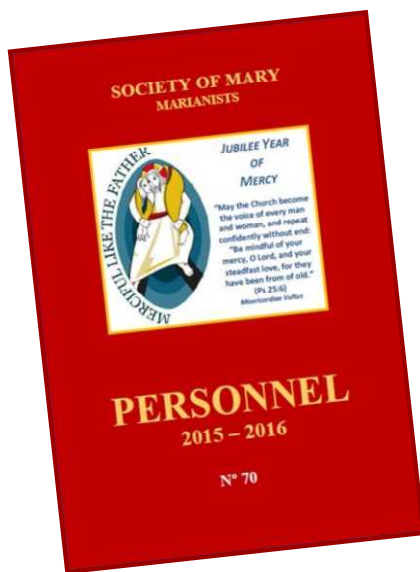
出席者の中には、私たちの事業体で働いているマリア会員と信徒協働者が約50名含まれていました。

大会後の11月22日、マリア会員の出席者30名は総本部教育局長に招集されてVia Latina22に集まり、大会から得られたものや、将来、彼らの間で出来る国際レベルでの協働の可能性について意見交換がなされました。全てが宇宙の王キリストの祝日に花を添えることになりました。



メール・アデルの列福運動

10月7日（水）ロザリオの聖母の日に、請願者 Antonio Gascón 師は教皇庁にメール・アデルの列福調査の *Summarium* を提出しました。*Summarium* は FMI シスター Michela Messina の病気と治癒の経過報告、証人の証言、医学的資料、および専門家である3人の腫瘍学者の報告書を含んでいます。一旦これが教皇庁に受理されれば、この *Summarium* は医学審議会の検討、検証、および判断のため医師団へ渡されることになります。私たちは創立者アデルの列福を願う祈りを利用して、アデルの列福のため祈りましょう。



2015年—2016年 国際名簿

2015—2016年国際名簿がローマ、マリア会総本部より最近発行されました。いつものようにこの名簿は直接各行政単位の本部に送られ行政単位内に配布されます。全ての行政単位が正確でタイムリーな情報を提供してくださったことに感謝します。総本部には2つのメールアドレスがあることをお忘れなく！！

- genseesm@smcuria.it (総書記: Romolo Segnalini Proietti師, SM)
- secretariatsm@smcuria.it (一般).

総本部、最近の送信

- 計報: Nos. 20-28
- 10月28日: CICLSALにて計画された修道者会議 — “一致する奉獻生活” (ローマ) は3ヶ国語でSM霊生局長André Fétis師から全て行政単位の長と霊生補佐宛てに送付されました。

総本部日程

- 12月13日 - 17日: AF & MAXはコートジボワールでのマリアニスト・カリスマの会議に出席

メールアドレス変更

全てのアドレスは変更されSMについての新情報は新国際名簿 No. 70 (2015 - 2016) を参照下さい。

